

2005年4月12日(火)

10:00 - 13:00 グループ研究：コンソーシアム

参加者：小野(東邦大学)、伊藤(立教大学)、坂下(法政大学、記録)

1. 個人分担の発表

小野さん、伊藤さんよりアンケート試案について配付資料あり

今後の研究に関する方向性を決めるためにも、どのような観点からコンソーシアムを研究するか再び話し合いたいという要望あり。

2. 今後のグループ研究について(討議内容)

コンソーシアムを「ゆるやかなネットワーク(協力体制)」として捉え、コンソーシアム成功の秘訣を探る。なお、人の観点からコンソーシアムを考えた場合、情報リテラシー教育や機関リポジトリの共同構築というケースもありえるのではないか。特に、情報リテラシーについては、情報教育のテキストをいくつかの図書館が協力して作成することはできないか。

現状として、1つの図書館がいくつかのコンソーシアムに参加することにより、欠けている部分を補っているケースがあるため、地域・主題・館種・共同購入すべての形態を研究対象として扱う。まずは、国内のコンソーシアムについて特徴の洗い出しを行ない、既存のコンソーシアムについてグループ分けをする。

仮想コンソーシアムのモデル

目録・レファレンス業務においてマンパワーが足りない等、図書館員が実際に抱えている問題を見つけ、それらを解決できるようなモデル館をいくつか設定し、仮想コンソーシアムを組むのはどうか。

また、図書館業務のアウトソーシング化が進むなかで、派遣人材の質を維持するためにも派遣会社に対して派遣人材の条件や教育・研修制度等について交渉できるような圧力団体をコンソーシアムとして組むのはどうか。

3. 次回までに行なうこと

国内のコンソーシアムについて下記のような特徴の洗い出しを行なう。

発足年

発足の目的

活動内容(ホームページや機関紙の発行も含む)

参加館種

コンソーシアム形成に伴う主題の有無

地域性の有無

コンソーシアム参加会費の有無

以上